

NEWSWAVE

新しい時代を切り拓く実践経営情報紙

発行

村田健二税理士事務所

〒720-0825

広島県福山市沖野上 5-29-27 大黒ビル 2F

TEL(084)959-3605 FAX(084)959-3606

**法人の黒字申告割合は5年連続増加
申告所得金額は過去最高の 61.5 兆円**

国税庁が公表した 2015 年度の法人税の申告事績によると、今年 6 月末現在の法人数は前年度から 0.9% 増の 304 万 8 千法人で、うち 2015 年度内に決算期を迎え今年 7 月末までに申告した法人は、同 1.1% 増の 282 万 5 千法人だった。その申告所得金額は同 5.3% (3 兆 928 億円) 増の 61 兆 5361 億円、申告税額の総額も同 1.9% (2150 億円) 増の 11 兆 3844 億円と、ともに 6 年連続の増加。申告所得金額の総額は過去最高となった。

この結果、法人の黒字申告割合は、前年度に比べ 1.5 ポイント上昇して 32.1% となり、5 年連続の増加となった。黒字申告割合は、昨年度にリーマン・ショック前の 2007 年度以来 7 年ぶ

りに 3 割を超えたが、2 年連続で 30% 台となった。もっとも、法人の黒字申告割合は、過去最高だった 1973 年度 (65.4%) の半分にも満たない低い数字が、1993 年度から 23 年も続いていることになり、黒字申告割合は低水準が続いている。

6 年連続の増加となった黒字法人の申告所得金額は、黒字申告 1 件あたりでは前年度に比べて 0.6% 減の 6785 万円となった。一方で、申告欠損金額は同 5.1% 減の 13 兆 7118 億円、赤字申告 1 件あたりの欠損金額も同 4.1% 減の 715 万円と、ともに減少し、企業業績全体が改善されつつあることがうかがえる。ちなみに、申告所得金額のピークは昨年度 2014 年度の 58 兆 4433 億円、申告欠損金額のピークは 1999 年度の 33 兆 2791 億円だ。

**低リスクで安定収益が期待できる
次世代の不動産投資「J-REIT」**

銀行への預金が、資産運用として有効でなくなってから久しい。定期預金の金利は 1995 年に 1% を切ってから 20 年以上回復せず、下落の一途。日銀がマイナス金利を導入した影響もあり、メガバンクも金利を 0.01% にまで引下げた。1000 万円の定期預金をしても、1 年で得られるのはわずか 1000 円。元本は減らないためリスクはゼロに等しいが、資産を増やすことはほぼ期待できない。

そこで注目を集めているのが J-REIT だ。一般的な不動産投資では、自己資金の目安は物件価格の 2~3 割、少なくとも 100 万円以上が必要と言われているが、J-REIT ならば 10 万円以下の少額投資が可能で、分散投資にも適している。

現在、J-REIT の個別銘柄は 56。マンションやオフィスビル以外にも、多彩な投資先があるのが魅力だ。例えば、高齢化社会で今後も高いニーズが予測される医療施設・介護施設を投資対象とするヘルスケア特化型の銘柄は 3 つあり、利回りは 2016 年 10 月 3 日時点で 4.26~4.77% と高水準。また、同年 8 月 31 日には世界初となる温泉・温浴施設特化型の REIT、大江戸温泉リゾート投資法人が上場した。海外ではカジノやゴルフ場に投資する REIT もあり、日本でも投資対象が広がっていくことが予想される。幅広い不動産へ手軽に投資でき、安定した収益が期待できる金融商品として、J-REIT は資産運用の重要な選択肢になっていくのではないだろうか。